

# 異なる出身国の大学生群のオンライン国際交流における学習経験の研究

## —大妻女子大学とペルージャ外国人大学の事例—

Unpacking students' learning experience in the online international exchange programme  
— Otsuma Women's University and University for Foreigners of Perugia —

伊藤 みちる<sup>1</sup>, 井内 梨絵<sup>2</sup>, 波津 博明<sup>3</sup>, 工藤 理恵<sup>4</sup>,  
趙 方任<sup>1</sup>, 森 功次<sup>1</sup>, 野藤 弓聖<sup>5</sup>, 森田 恵美<sup>1</sup>, 福永 裕美<sup>1</sup>

Michiru Ito<sup>1</sup>, Rie Inouchi<sup>2</sup>, Hiroaki Hazu<sup>3</sup>, Rie Kudo<sup>4</sup>,  
Fangren Zhao<sup>1</sup>, Norihide Mori<sup>1</sup>, Misato Noto<sup>5</sup>, Emi Morita<sup>1</sup>, Yumi Fukunaga<sup>1</sup>

<sup>1</sup>大妻女子大学国際センター, <sup>2</sup>ペルージャ外国人大学日本語コース, <sup>3</sup>大妻女子大学家政学部,  
<sup>4</sup>フェリス女学院大学全学教養教育機構, <sup>5</sup>西インド諸島大学セント・オーガスティン校言語学習センター

キーワード: オンライン, 国際文化交流, 日本語学習, 異文化理解

Key words: Online, Cultural exchange, Japanese language learning, Cross-cultural understanding

### 1. 研究目的

国際化の推進が叫ばれる昨今, 地球規模の課題解決や広い視野から物事を分析できる人材の育成が大学に期待されている。中でも背景を異にする学生が共に学ぶグローバルな多文化協働学習が注目され, 有効性が主張されている。

しかし, その異なる背景を持つ学生たちが, 例えば異文化交流などの多文化協働学習へ参加することについて, ①動機, ②学習の経験, ③その応用の可能性, の解明には至っていない。同時に, 2020年から2022年3月現在に至るコロナ禍においては, 海外渡航を伴わない, オンライン語学研修や異文化理解研修が主流となっているが, それらへ参加する学生の上記①~③に関する知見は未だ浅い。

そこで本稿は, 本研究の一員が関わる日本とイタリアの大学生の多文化協働学習機会としてのオンライン交流会について, アンケートと聞き取りから, 上記①~③を明らかにする。さらにオンライン多文化協働学習機会のファシリテーターとしての気づきの点を報告する。

なお本研究対象のオンライン交流会は, 2019年に交流協定を締結した大妻女子大学とイタリア共和国ウンブリア州のペルージャ外国人大学の学生との間で, 日本語を使用言語として実施された。2019年夏には大妻女子大学から5名が短期文化研

修としてペルージャ外国人大学を訪問している。

### 2. 研究実施内容

#### (1) 実践内容

大妻女子大学とペルージャ外国人大学は以下の要領でオンライン交流会を行った。大妻女子大学とペルージャ外国人大学から教員各1名がファシリテーターとして参加し, 進行・調整を行った。

①期間: 2020年12月から2021年12月まで。

②回数: 42回

③累計参加者数: 大妻女子大学: 220名, ペルージャ外国人大学: 156名。数名の固定参加者や頻繁な不定期参加者以外は, 初参加者が多かった。

④使用言語: 日本語。ペルージャ外国人大学の参加学生は, 日本語履修歴が2年程度で, 日本語で問題なく意思疎通が可能なレベルには満たない学生がほとんどであった。ペルージャ外国人大学の日本語教員がイタリア語・日本語の通訳を担当した。なお同教員は日本語が母語であるが, イタリア政府認定のイタリア語検定試験 CELI (Certificati di Lingua Italiana) で C2 レベルを獲得している。よって日本語・イタリア語の両言語において, 言葉の持つ文化的背景にも配慮しながら通訳が可能な言語運用能力を持つ。大妻女子大学の参加学生にはイタリア語会話に長けている者はいなかった。

⑤1 回あたり平均参加者数：大妻女子大学：5 名，ペルージャ外国人大学の教員が会話を調整しながら意思疎通を図るには上記平均参加人数が適当であった。両校合わせて 15 名以上が参加した場合には、会話調整が難しく、調整役としては参加者過多であると感じた。

⑥開催日時：ファシリテーターの都合がつく平日、日本時間午後 4 時もしくは 5 時から 1 時間（日本時間）。8 時間時差（サマータイム時は 7 時間）があるイタリアでは午前 8 時もしくは 9 時となる。

⑦ツール：Google Meet ペルージャ外国人大学は、セキュリティ上の懸念がある Zoom ではなく Google Meet の使用を希望した。

⑧周知方法：大妻女子大学国際センターウェブサイトや UNIPA（学生のポータルサイト）へ毎月の開催日時を明示した告知を掲示した。ペルージャ外国人大学の学生は日本語担当教員より紹介。

⑨参加方法：UNIPA 掲載の Google Meet リンクより入室。履修，登録，出願，選考など参加に係る手続きは一切なし。完全な自由参加とした。

⑩対象学生：大妻女子大学は UNIPA 閲覧権を持つ学生すべて，つまり大学院生・大学生・短大生・留学生・交換留学生を対象とした。ペルージャ外国人大学は日本語初級履修者を対象とした。

⑪参加時の環境：大妻女子大学の学生とペルージャ外国人大学の学生は共に自宅や寮の個室からの参加者が多かったが，自宅内でもリビングルームなどの共有スペースなどの家族がいつ周りに来るかわからない環境からの参加者も目立った。また一部対面授業が再開した後には教室や学食など大学校舎内の共有スペースからの参加者も見受けられた。さらには，熱心な参加者の中にはアルバイトやサークル活動への移動途中に，地下鉄の中や道路を歩きながら参加した学生もいた。

ファシリテーターの教員 2 名は，基本的に自宅から参加した。年末年始の実施では帰省先や日本一時帰国時の入国時水際対策隔離滞在施設から参加した。さらに日々の業務が予定通りに進まずに，交流会開始時間までに帰宅が叶わなかった際には，新型コロナワクチン接種施設や公園から，また最寄りの駅から自宅まで歩きながら，交流会を開催した。

(2) 学習経験に関するアンケート・聞き取り

2021 年 9 月から学習経験に関し Google Form でアンケートを取り始めるも，回答率が 6%未満であった。より詳細な経験や感想の聞き取りのため，またアンケートの記述形式では回答が煩雑で困難に感じる学生の可能性を鑑み，フォローアップ・インタビューを試みた。インタビューの承諾を明記した学生とインタビューを試みるも，スケジュール調整に難航し，インタビューまで漕ぎ着けたのは 2 名のみであった。

(3) アンケート・聞き取り結果

①あなたの交流会への参加姿勢は？

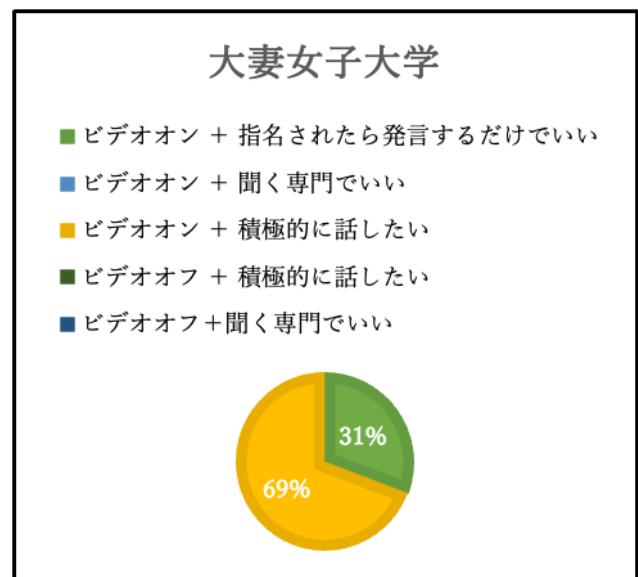


図 1. 参加姿勢<大妻女子大学>

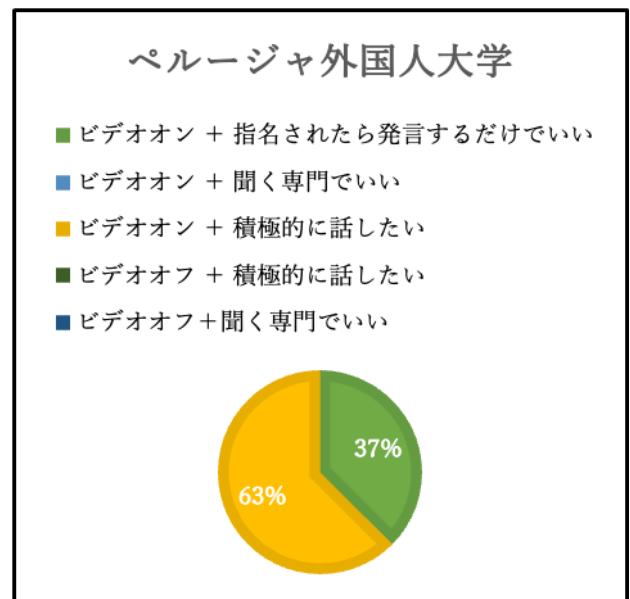


図 2. 参加姿勢<ペルージャ外国人大学>

③交流会から何を学びましたか？

<大妻女子大学>

- イタリアと日本の文化の違いを学ぶ事ができた.
- コミュニケーション能力.
- イタリアの霊や肝試し, 刑に処された場所の認識の度合い, 呪い, 門限などについて知ることが出来ました.
- お話を聞く際, 自分で思っているよりオーバーに反応しないと楽しんでいることが伝わりにくいということも分かりました.
- 書物では知らなかったイタリアの文化や街について学びました.
- イタリアの文化, 大学の入試について.
- 語学力 (イタリア語を勉強し始めたので)・海外への興味.
- イタリアだけでなく日本のことについての理解が深まった.
- 当たり前だと思っていた日本の文化との違いを知ることができること.

<ペルージャ外国人大学>

- 新しい日本文化の一面を知ることができ, リスニングの練習が沢山できた.
- 伝統が異なるのはもちろんだけれど, 深い部分ではそれほど違わないと思った.
- 文化について, 例えばある種の食材が日本では他の国々とは違った形で調理され, 食べられていることなどを学ぶことができた.
- 日本語のリスニング力と自然な会話力を向上させるのに役立った.

④何かイタリア語/日本語を覚えましたか？

<大妻女子大学>

- ジャポネーゼ, スプマンテ, ラウーロ, カプチーノ, マロッキオ, シー (スィー)
- 聞こえた音はあるのですが, どういう意味が分かりませんでした.
- 日本語の意味は覚えているのですがカタカナが覚えられませんでした.
- settimana, Coda di aragosta, Mi sono innamorato la prima vista, calcio, scarso, ciao / si / no / Graze / Buongiorno / Buonasera / Arrivederc / Prego / Scusi / Per favore / Ho capito / biglietteria / Come sta ? / buono / bravissimo など 書ききれません!  
(注: 学生記載のまま)
- コジィ 日本語でそうそう

<ペルージャ外国人大学>

- きもだめし, 甘い, 球, 雛, かぼちゃ, 金縛り
- 教室で学ぶ日本語は文法事項や教科書の語彙に関連付けられた簡潔なものだが, 交流会での会話はもっとライブ感があって注意を必要とする.
- 自分は日本語の多様なアクセントの違いを理解するレベルではないが, 教室で聞くものとは違うアクセントを聞いたように思う. 使用語彙もよりインフォーマルだ.
- 教室で使う教科書の中にはない, 日常生活の表現を沢山学んだ.
- 交流会で話される日本語はとても速い. 授業では教員はゆっくり話す.
- 交流会で使われる言葉の多くは, 私が知らなかったものやよく聞き取れなかったものだったし, 大妻の学生たちは日本語を母国語とするので話す速度が速く, いつも理解するのは難しい.
- この交流会で生まれるテーマは自然で日常生活に即したものだ. 会話で使われる日本語を通じて, 言葉の発音を理解し, その言葉が使われるコンテキストや使い方を知ることができる. この授業はとても有益だと思う.

大妻女子大学 & イタリア・ペルージャ外国人大学  
オンライン交流会 in 日本語

日本語を学ぶイタリアの学生と日本語で交流しませんか

日にち: 7月 2日 (金) 9日 (金) 15日 (木) 22日 (木)  
時間: 17:00~18:00 (イタリア: 10:00~11:00)

交流方法: Google Meet (詳細はUNIPAをご覧ください)  
\*特に予約や申し込みは必要ありません. 気軽に参加してください.

使用言語: 日本語 (イタリアの学生は日本語学習歴平均2年程度です)

会話テーマ: コロナ禍の学生生活, 音楽, 食文化, 就職活動, ビザの正しい調べ方など

図 3.. 2021 年 7 月分 告知ポスター



⑤この経験をどのようにこれからの生活 / 将来に活かせると思いますか？

<大妻女子大学>

- 日本と海外を比較する上でも、今回聞いた話は参考になると思いました。
- どのような分野のゼミを選択するかを考える際に活かせると思った。
- イタリアへ旅行などをした際に学んだことが生かせると思います。
- 大学の授業で海外の人のための日本案内という授業があるので参考にしたいと思います。また、海外の人と交流するという事は良い人生経験になると思いました。私は将来まちづくり関係の職に就きたいと考えているのですが、今回のように海外の人の声を聞くことで視野が広がるなど思い、活かしたいと思いました。
- テレビや授業などで少しでも外国の霊などについて話があったら、その国とイタリアの文化を比較することが出来、より理解が深まると思いました。また、イタリアに行く機会があれば、実際に修道院なども見てみたいと思いました。
- 今まで以上にイタリアへ行きたい気持ちが高まったことや、その街の歴史を自身でも調べてみようと思いました。またイタリア語の勉強も始めてみたいと思いました。
- イタリア人と会話をするときの話題にできる。
- イタリアに行った時には、調子に乗らずにご飯を頼み過ぎないようにしようと思った。
- 海外交流の企画・運営・補助、積極的なイタリア語学習。
- イタリア語の番組や、イタリア映画も見られるようになり、文化にも興味がわいたので、これからも勉強し続けていきます。
- もっといろんな国の人とも話したいなと思うきっかけになったので、語学を勉強していくうえでモチベーションにつながった。
- 広い視野で物事が見られるようになると思う。また、外国人と会ったときに話しやすくなると思う。
- イタリア文化を話のネタにしたい。

<ペルージャ外国人大学>

- 自分のリスニング力の向上に非常に役に立った。
- 日本語を話すことに関して参加前より緊張しないので、日本人と話すときに役立つ。
- 交流会で聞いた言葉や学んだことを実際の生活に応用する。

- 交流会に参加した人たちに実際に会う。
- 何度も何度もこういう経験を繰り返すことで日本語を活かせるようになる。
- このような交流会は言語を勉強する時に感じる緊張を解いてくれる。教師とは異なるネイティブスピーカーとコミュニケーションが取れるようになるために重要だと思う。将来、日本人を前にした時、すでに日本語を使ってコミュニケーションを取ろうとした経験がある、という自覚があるので、緊張しにくくなると思う。
- もっと交流会があればいいが、一週間に一度で丁度いい。

⑥記憶に残っている楽しかった話題は何ですか？

<大妻女子大学>

- イタリアの風景を見せて下さったときなど数え切れません。
- 景色、鳥。
- 先生のボクシングの話、名付けの話、美容院の話
- どの話題も新鮮で楽しかったです。
- 日本とイタリアの「怖い」の価値観。
- 日本→イタリア、イタリア→日本に行く時に持っていくものは（パスタ、ティッシュ、日焼け止めなど）
- マリトッツォ、スシトッツォ。
- スポーツの授業について。私は大学でスポーツを履修していないため、どのようなことを授業で行っているか知ることができたこととイタリアでは部活などあまり活動しないことが意外だったからです。
- お酒の席、イタリアの乾杯するときのマナー。
- 就活の話。
- 秋の食べ物についての話題。栗の話。
- イタリアで流行っているアニメの話題。
- お酒を注ぐ際には、中世の影響からこのように注いではいけないというマナーがあること。
- 知らない料理について作り方なども知れたこと。
- 秋の食べ物の話題で魚の料理の仕方を聞いて、ニンニクやトマトなどを使っておいしそうだと思いました。サイゼリヤでは食べられないような本場の味をいつか食べてみたいと思いました。
- 南北イタリアに違いがあるのだなと知ることができ面白かったです。

<ペルージャ外国人大学>

- 飲酒文化、部活動、妖怪、カラオケ、国家。

- 食べ物に関すること、最近の日本について、昔の思い出など。
- 日本語、日本文化、イタリア語、イタリア文化との違いについて。
- 日本人のステレオタイプ、日本の食べ物。
- 食の伝統、国の祝日、日本人の考え方や物事の捉

- え方。
- 様々な料理、食と文化。
- 日本でかぼちゃがどうやって食べられているか。
- 日本の言い伝えと怖い話。



図 4. 交流会の参加者たち

⑦感想を自由に書いてください。

<大妻女子大学>

- 本当に楽しくて、今の所皆勤賞です。これからも続けていきたいので、ご計画などお手数ですが宜しくお願い致します。
- 新規の学生（大妻）が定着しないことが気に掛かる。1時間で一言も話せていない状況も見受けられるので、イタリア人へ聞きたいこと・関心のあることを初参加時にきいて何かあればそれをみんなの最初の話題にするなど、もう少しフォローなり指名なり新規の学生が楽しめて発言しやすい環境を作ってあげてほしい。
- 最初はしっかり話せるかとても緊張していましたが、とても良い雰囲気です、聞いているだけでも大丈夫で安心しました。
- もっと参加したいと思ったのですが、あと次回しか参加出来なそうなので、もう少し回数を増やして欲しいなと思いました。
- 私は料理が好きで特にお菓子作りをよくするので、外国のお菓子に興味があります。イタリアで

人気だったり、お祝いで食べたりするようなお菓子について聞いてみたいです。また、アニメでヨーロッパの人々はシエスタという長い休憩を取るということを聞いたので、それで仕事などは成り立つのか、休憩で何をやるのかなど聞いてみたいと思いました。

- 7月以前のお知らせメールに気がつくことができなかつたのが凄く悔しいです。チラシを見た時は「(英語が全くできないので) 難しいのかな」と思っていたのですが、メールでお伺いしたところ気軽なものだと分かり、参加を決断して本当に良かったです。
- 今後あるといいなと思うものは、プロフィールカードのようなものが事前に見られるような場所 (google ドライブなど) があると事前に教える準備ができるかもしれないと思いました。私は茶道やよさこいをしていたので日本文化に興味があれば道具の用意ができるなと考えました。ただ今回の形式は気軽に参加できるところが魅力だと思うので、これは無くても良いと思います。

- 一点要望があるとすれば、難しいと思いますが他の曜日にも開催して頂きたいと感じました。
- もっとイタリアについて知りたくなりました。
- リモートで気軽に参加することができるのがよかったです。初めて参加して、自分が話すタイミングが分からなかったのですが、指名していただいて、イタリアの方に質問することができてよかったです。
- 今まで参加してきて、気軽に会話に参加できるのが良いと思いました。時間帯もちょうど良いので参加しやすいです。
- こういう国際的な交流をすることが初めてで緊張していたのですがとてもアットホームな感じで、時々話を振ってくださったので話に参加しやすかったです。私はイタリア関係でいうと、音楽の授業でイタリアの曲を歌ったり、サイゼリヤに行ってお話振ってくださったのを食べていたりして、そういうことをお話を振ってくれた時に話したら良かったなと後悔しています。また機会があったら「日本ではこういう時にイタリアのことを学べたり、知ることができるよ」と共有したいです。

#### <ペルージャ外国人大学>

- 夏以降も交流会が開催されることを望みます。
- ヴァーチャルとはいえ、ほぼ全員が日本語を話している部屋に身を置けるとするのがとても良かった。この経験によって(コンフォートゾーンから出ることによっていい意味での緊張感を自分に与えながら)、二つの国の違いを伝えるために日本語を使う努力を自分に課したし、その時に行われている会話の中でそうしなければいけない必要を感じた。
- 毎回の交流会のあと新しく学んだ単語のリストを作りたいぐらいです。
- 日本人学生が好奇心を持って私たちを見て、私たちの話を聞いてくれたこと、先生たちと自然に笑い合えたことが私のモチベーションになりました。時として語彙不足から、自分がレベルに達していないと感じることもありましたが、先生がサポートしてくださったので全て自然で楽しいものとなりました。
- この時間はとても有意義だと思います。日本とイタリアが好きなたちの情熱を一つにして、最新の話について話し、あまり知られていない文化の一面を知り、また興味深い人達と知り合う機会

を与えてくれました。

#### (4) ファシリテーターの気づき

本研究対象である大妻女子大学とペルージャ外国人大学のオンライン交流会は、大妻女子大学の教員1名、ペルージャ外国人大学の教員1名、合計2名の教員がファシリテーターとして参加した。その2名の気づきの点を以下に挙げる。

本オンライン交流会は、開催日時が変則的で、単位認定はなく、完全自由参加であるため、どれだけ学生が参加するか、毎回心配しながら開催を続けた。その中で、日本語教育やイタリア語の専門を持つ学生がいない大妻女子大学から、イタリアの日本語学習者との交流会に積極的に参加する学生がいたことは嬉しい驚きであった。イタリア文化や外国の学生との交流に対する純粋な関心を持つ学生に加えて、コロナ禍で人との関わりが制限され、人的交流に飢えている学生の姿も印象的であった。また毎月の交流会スケジュールに合わせてアルバイトのシフトを組むほど、積極的な参加者の姿もあった。

大妻女子大学の学生が上記(3)⑦で言及しているとおり、60分間の交流会で一度も発言しない学生は何人かいた。(3)①にあるように、自由参加で単位認定プログラムでもないのに、わざわざ積極的に参加したにもかかわらず、特に会話に参加する希望がない学生の存在も顕著であった。よって発言の強制を避けたかったファシリテーターとしては、Google Meetに映る参加者の表情を確認しながら、話題を振ったり、指名して回答を促したりした。しかし傍聴者としての参加に完全に満足している学生に対しては、そのまま発言を促すことなく参加させていた。とはいえ、参加学生の参加姿勢に気を遣うばかりに、(3)⑦の指摘にあるように、発言したい学生に発言する機会を与えることができなかつた可能性も十分にある。

オンライン交流会にGoogle Meetのビデオカメラを常時オフの状態に参加する大妻女子大学の学生がいたことに驚いた。ペルージャ外国人大学の参加者にはビデオカメラがオフの者は一人もいなかった。講義ではなく交流会であるため、人々との交流を目的に学生が参加するであろうと予測し、そのため「顔出し」は当然の条件であろうと考えていた。しかしコロナ禍も2年目になり、ZoomやGoogle Meetなどのオンライン授業で使用される、インターネットを用いたバーチャルな教室に



も慣れた学生は、活発な参加者としてだけでなく傍聴者となる術も習得している。しかし自分一人だけがビデオカメラがオフの状態に参加することの不自然さをおかしいと感じない事実、マナー以前の、「顔出し」有無・可否に関する感覚のズレを感じた。

大妻女子大学の参加学生の中には、ビデオカメラが捉える背景に対し、より慎重な注意を払う必要がある学生も数名見受けられた。教員としては、オンライン授業はもとより本交流会には、騒音や人の往来により注意がそがれる可能性のない自室などからの参加を当然として考えていた。しかし、すべての学生が静かな環境の中でビデオカメラをオンにして参加できるわけではないことがわかった。傍でテレビが大音量でついていたり、洗濯物が室内の至る所に干されている部屋から参加する学生、自宅のリビングルームしかインターネットが使えなく家族の動向によっては退出せざるを得ない学生など、少なくともファシリテーターの教員2人が考えていた、オンラインのみならず普段の学習にも適した、静かに集中して学習できる環境を持つことは必ずしも一般的ではないようであった。イタリアと日本の住環境の違いも要因にはあるだろうが、大妻女子大学とペルージャ外国人大学の参加者の Google Meet に映る背景から見える参加環境の違いは顕著であった。

両大学の参加学生たちは本交流会で顔馴染みになると、リラックスした雰囲気醸し出した。この精神的圧迫が排除された場では、ペルージャ外国人大学の学生たちが日本語を話そうと一層努力をしていたように見受けられた。単語レベルでも日本語を一生懸命に話そうとするペルージャ外国人大学の学生を見守る大妻女子大学の学生の温かい眼差しが印象的であった。ペルージャ外国人大学の学生が発話する日本語構文は必ずしもすべてが文法的に正しいわけではなかった。しかし格助詞や数助詞、時制などの間違いを指摘するわけでもなく、ペルージャ外国人大学の発話を遮って文法的に正しい文を提案するわけでもなく、日本語の一文を発話し終わったペルージャ外国人大学の学生に対し、大妻女子大学の学生は努力を讃える拍手を送っていた。嬉しそうに日本語を話しているペルージャ外国人大学の学生を見ると、日本在住の生の大学生と話す機会を持つことは語学学習の良いモチベーションになることを実感した。また間違いながらも学習中の日本語を一生懸命に発

話するペルージャ外国人大学の学生の姿を見て、大妻女子大学の学生の語学学習や異文化交流への関心が高まることを期待している。

### 3. まとめと今後の課題

本研究が対象とする大妻女子大学とペルージャ外国人大学のオンライン多文化協働学習、つまりオンライン交流会は2020年12月から2021年12月まで13ヶ月間実施した。本稿はそのオンライン交流会の参加学生の①動機、②学習の経験、③その経験の応用可能性と、ファシリテーター役の教員2名の気づきの点を記録したものである。

全42回実施した交流会には、大妻女子大学から220名、ペルージャ外国人大学から156名の参加者を累計した。両大学の参加学生たちは日本とイタリアの文化の相違を学び、また当たり前と思っていた自国の文化が当たり前でないことを学び、異文化理解と同時に自文化理解も促された。またペルージャ外国人大学の学生の日本語学習者としての姿から、大妻女子大学の学生は学習中の外国語で発話する際に間違いをおかす恐怖心が不要であること、学習者の不完全な日本語に対する許容や、学習者に対する思いやりの姿勢を学んだ。

本報告執筆時、本研究対象の大妻女子大学とペルージャ外国人大学のオンライン交流会は休止中であり、令和4年度4月からの再開を計画している。大妻女子大学においては、本交流会に関する学生への周知をUNIPA経由以外でも行い、国際交流や異文化理解に関心がある学生の参加を促したい。またペルージャ外国人大学においては、今後しばらくはコロナ禍の影響でイタリアでの日本人留学生との対面交流は限られるので、日本語学習への関心を持続させながら、本交流会への参加を促していきたい。

### 4. この助成による発表論文等

#### ①雑誌論文

- [1] Michiru Ito et al. "Illuminating students' learning in online cultural exchange programme". *International Journal of Human Culture Studies*. 査読待ち.
- [2] Michiru Ito and Rie Inouchi. "Relazione finale del progetto di scambio tra l'Otsuna Women's University e l'Università per Stranieri di Perugia". *International Journal of Human Culture Studies*. 投稿予定.

## ②口頭発表

[1]伊藤みちる「大妻女子大学とペルージャ外国人大学のオンライン交流会報告」イタリア文化会館，東京都千代田区。（発表確定．2022年3月中）（招待講演）

[2] Rie Inouchi. “Relazione finale del progetto di scambio tra l'Otsuna Women's University e l'Università per Stranieri di Perugia”. ペルージャ外国人大学，ペルージャ，イタリア共和国ウンブリア州。（発表確定．2022年3月中）